

# 木更津高専令和3年度計画及び実績

	令和3年度 年度計画	令和3年度 年度実績
I. 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためのとるべき措置  【1. 1 教育に関する事項】 (1) 入学者の確保	①-1 ・「キャンパスガイドブック」の情報の確認と更新を行い、合同入試説明会、中学校訪問や各種学校・入試説明会を通して積極的に広報を行う。 ・進路指導について、近隣の中学校長会等と連携を図り、中学校主催の進路指導説明会に参加する。 ・Webページ、学校要覧、高専だより等を用い専攻科の広報活動を推進すると共に、パンフレットの求人企業等への配布などにより専攻科の知名度向上に努める。また、国内外への広報として、特別研究の英文概要をまとめた冊子の作成を継続する。 ・新型コロナウイルス感染の影響が来年度まで長引くことを想定し、中学生が来校しなくても学校紹介ができるビジュアルなコンテンツを作成する。また、本校ホームページをスマートフォン対応版にすることの検討を始める。 ・ポスターのデザインやサイズを見直し、本校の特徴や魅力をより発信できるようにする。	①-1 ・「キャンパスガイドブック」の情報の確認と更新を行い、入試説明会（10/22、10/23、12/11）、中学校訪問(41校)を通して広報を行った。また、キャンパスガイドブックにARで木更津高専を体験できる仕組みを取り入れた。 ・中学校主催の進路指導説明会に参加した。（10/21、10/22 公立高校合同説明会） ・Webページ、学校要覧、高専だより等を用い専攻科の広報活動を推進するとともに、パンフレットの求人企業等への配布などにより専攻科の知名度向上に努めた。また、国内外への広報として特別研究の英文概要をまとめた冊子を作成した。 ・ドローンで撮影した学校の空撮動画を、本校公式Webページに掲載した。 ・オンライン学校説明会の配信内容を動画にして、本校公式Webページに掲載した。 ・学園祭の企画をYouTubeで配信した。 ・各学科、学系にVRカメラを配布し、ビジュアルコンテンツ作成の準備を行った。また、ビジュアルコンテンツ作成の講習会を数回行った。 ・本校公式Webのスマートフォン対応版の検討を始めた。 ・郵便局などに掲示するポスターの来年度の改訂に向けてデザインの見直しを始めた。 ・校章およびシンボルマークの使用ルールを見直し、広報活動で使いやすくした。
	①-2 中学校訪問、各種学校・入試説明会において卒業生のキャリアパスを紹介するなどし、志願者増加を推進できる方策を実施する。また、例年と同様に、首都圏進学フェアなどの各種説明会へ参加する。	①-2 中学校訪問、入試説明会において卒業生のキャリアパスを紹介するなどし、志願者増加を推進できる方策を実施した。入試説明会において、各学科の説明を実施し、学科の違いをより中学生等が認識できるようにした。また、例年と同様に、首都圏進学フェア(8/1、8/7、8/8、8/29)などの各種説明会へ参加した。
	②-1 オープンキャンパスや文化祭などでは、女子の志願者を意識し、在学女子学生の協力を積極的に求める。また、女子卒業生にも協力をお願いする。	②-1 ・オープンキャンパスにおいて女子中学生向けに「先輩女子に聞いてみよう」を企画し、女子卒業生2名に来校してもらいキャリアパスなどの話を聞ける講演会を開催した。 ・新型コロナウイルス感染拡大の影響により、文化祭で計画していた女子学生の確保の取り組みは実施できなかった。

	令和3年度 年度計画	令和3年度 年度実績
	<p>②-2 本校Webページから各種行事の情報の発信を行うと共に、発信内容の改善検討を行う。また、キャンパスガイドブックおよび学校・入試説明用パワーポイントの更新を行う。</p> <p>③ 高等専門学校教育にふさわしい人材が選抜できているかにつき、進学フェア、体験入学、オープンキャンパス、推薦入試面接を中心に、入学志願者に係わる調査・分析を引き続き行う。また、令和3年度学力選抜からの選抜方法変更による選抜結果への影響について検討を行う。</p>	<p>②-2 本校Webページから各種行事の情報の発信を行うと共に、発信内容の改善検討を行っている。また、キャンパスガイドブックおよび学校・入試説明用パワーポイントの更新を行った。</p> <p>③ 進学フェアでの面接等で受験希望者（入学志願者）に本校を選択した理由を確認している。学力選抜方法について、検討を行った。</p>
(2) 教育課程の編成等	<p>①-1 専攻科を含めた学科学系の改組・再編に関して情報を集め、高専を取り巻く社会情勢の動向を注視しながら引き続き検討を行う。</p> <p>①-2 インターンシップを技術振興交流会参加企業や千葉県内企業・大学・公官庁および海外において引き続き実施する。コロナ禍を考慮して、オンラインインターンシップの効果的導入を引き続き検討する。国立高等専門学校の専攻科と大学が連携して教育を実施する教育プログラムに関する情報収集を専攻科連絡会や第2ブロック研究促進会議などを通して行う。</p>	<p>①-1 専攻科を含めた学科学系の改組・再編に関しては、他高専の状況やMCC、高専の質保証の点検状況等から検討を行った。</p> <p>①-2 専攻科において、産業界と連携したインターンシップや共同研究の実施を継続している。専攻科生のインターンシップについては、以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・制御・情報システム工学専攻（大学1名、企業1名）</li> <li>・環境建設工学専攻（大学1名、企業1名）</li> </ul>
	<p>②-1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「KOSEN」の導入支援対象校や学生交流協定を締結している海外の教育機関との単位認定制度、単位互換協定について検討を行う。</li> <li>・海外の教育機関との海外留学や海外インターンシップについて継続して実施する。</li> </ul>	<p>②-1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「KOSEN」の導入支援対象校や学生交流協定を締結している海外の教育機関との単位認定制度、単位互換協定について検討を行った。</li> <li>・新型コロナウイルス感染拡大の影響で海外の教育機関との海外留学や海外インターンシップは実施できなかった。</li> </ul>

	令和3年度 年度計画	令和3年度 年度実績
	<p>②-2 「実用英検」「技術英検」「TOEIC L&amp;R IP」を継続して活用することにより、学生の総合的な英語力のレベルアップを図る。なお、各実施団体ともコロナ対策を十分に行った会場を準備するなどしており、ウィズコロナ／アフターコロナという観点からも、今後の学内での特に冬季の試験実施については縮小を検討する。</p>	<p>②-2 コロナ禍であるため、「実用英検」「技術英検」を各1回、3年生に限定して、次のような日程等で実施した。「TOEIC L&amp;R IP」については実施しなかった。</p> <p>なお、「技術英検」については、学生1名が「第126回文部科学大臣賞」を受賞した。</p> <p>〈実用英検〉</p> <p>10月9日(土) 準会場一次試験 36名受験(38名申込)</p> <p>準2級：36名(内2名は一次試験免除)</p> <p>〈技術英検〉</p> <p>6月12日(土) 152名受験(156名申込)</p> <p>3級：152名</p> <p>次年度以降もコロナ禍であることが想定されるため、令和4年度は受験機会の少ない「技術英検」を1回のみ学内で実施し、公開会場等での受験を推奨することとした。</p>
	<p>③-1 令和2年度新型コロナウイルスへの対策の一環で学内におけるTeams利用が整備された。そこで令和3年度はTeamsでの働きかけを積極的に利用することも踏まえ、新入生に対し、学友会や4月の学生委員会によるオリエンテーション等を通じ、部活動への積極的な加入を強く働きかけると共に、担任会等からも指導する。また、高専体育大会、ロボコン、プロコン、英語弁論大会等のコンテストへの積極的な参加を推奨し、学生活動を効率的にかつ効果的に支援する環境づくりを進めていく。</p> <p>③-2 新型コロナウイルス感染状況に影響されることが予想されるので、例年のようにできるか不明なことが多いが、その中で各種ボランティアへ積極的に参加する環境づくりに努める。また、環境整備として学内の清掃活動をホームルーム活動として実施できるよう計画する。</p> <p>③-3 「トビタテ！留学JAPAN」プログラムをはじめとする外部の各種奨学金制度等を積極的に活用できるようにすると共に、CDIO加盟校および交流協定校を中心とするインターンシップ、交流会、英語研修等を継続する。</p>	<p>③-1 部活動やコンテスト等の紹介を積極的に行っている。また、新型コロナウイルス感染防止に関して大会参加等における基準を設け、大会参加ができるよう支援を行った。全国高専体育大会においては陸上競技・女子走り高跳で1位、女子走り幅跳およびやり投で3位に入賞した。そのほかに、水泳・バドミントン・卓球・テニスなどが全国大会へ出場することができた。</p> <p>③-2 新型コロナウイルス感染防止の観点からボランティア活動は実施できなかった。</p> <p>③-3 「トビタテ！留学 JAPAN」プログラムについて検討している学生に対して説明を行った。また、交流協定校であるシンガポールの Republic Polytechnic と一緒にオンラインインターンシップと交流会を実施した。また、英語力、国際コミュニケーション力の向上目的として、International Workshop on Effective Engineering Education (IWEEE) をオンラインにて開催した。</p>

	令和3年度 年度計画	令和3年度 年度実績
(3) 多様かつ優れた教員の確保	① 理系担当教員の新規採用にあたっては、博士の学位を持つ者や技術士等の職業上の高度な資格を有する者を積極的に採用する。また、現職教員に対して、これら資格の取得を奨励すると共に、教員が上位の学位を取得できるような支援を行う。	① 令和3年4月1日付で、准教授（基礎学系）1名、助教（機械工学科・電子制御工学科）2名を採用した。3名とも博士の学位を持つ者を採用できた。
	② クロスアポイントメント制度について検討する。	② クロスアポイントメント制度について、他高専の状況等を調査し、検討した。
	③ 引き続き、柔軟な勤務体制制度や女性教職員の働きやすい環境整備について検討する。また、同居支援プログラムや女性研究者支援プログラムの周知を積極的に行う。	③ <ul style="list-style-type: none"> <li>・全教員に同居支援プログラムの案内を行った。</li> <li>・文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ」に2名の女性教員が採択され、育児・介護等のための時間を確保することができた。</li> <li>・全教職員に対して、職場環境やワークバランスに関するアンケート調査を1月に行い、集計結果を校長に報告した。</li> </ul>
	④ 外国人教員採用について引き続き検討する。	④ 常勤として1名、外国人教員を採用している。また、非常勤として3名、外国人教員を採用している。
	⑤ 長岡技科大との「戦略的技術者育成アドバンスコース」等の連携授業を継続し、両技科大との人事交流を図る。	⑤ 長岡技科大との「戦略的技術者育成アドバンスコース」等の連携授業を継続して1名の教員が担当している。
	⑥ <ul style="list-style-type: none"> <li>・夏季休業中の「厚生補導研究会」、FDに関する講演会を継続する。</li> <li>・外部機関の開催する教員研修会に対して、教員の派遣を促進する。</li> <li>・キャリアパス形成のため、機構のFD研修制度に教員を推薦する。</li> </ul>	⑥ <ul style="list-style-type: none"> <li>・夏季休業中の「厚生補導研究会」は新型コロナウイルス感染拡大の影響で3月10日に実施した。</li> <li>・日本学生支援機構主催の「障害学生支援実務者育成研修会」に教員1名を派遣した。</li> <li>・文部科学省主催の「いじめの防止等に関する普及啓発協議会」に教員1名を派遣した。</li> <li>・文部科学省主催の「児童生徒の自殺予防に関する普及啓発協議会」に教員1名を派遣した。</li> <li>・高専機構のFD研修として以下の派遣を行った。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・新任教員研修会（3名）</li> <li>・教員研修会（管理職研修）（2名）</li> <li>・情報担当者研修会（1名）</li> </ul> </li> </ul>

	令和3年度 年度計画	令和3年度 年度実績
	<p>⑦ 教育、研究、地域連携、学校運営などの活動において顕著な功績が認められる教職員や教職員グループを表彰する。</p>	<p>⑦ 顕著な功績が認められる教職員や教職員グループの表彰を3月10日に実施した。</p>
<p>(4) 教育の質の向上及び改善</p>	<p>①-1 モデルコアカリキュラムによる教育の質保証の取組を推進し、PDCAサイクルを機能、定着させるために、以下の項目について重点的に実施し、取り組み状況について調査する。</p> <p>[Plan] 卒業時アンケートでディプロマポリシー達成度を確認する。</p> <p>[Do] 課題解決のPBL導入については検討する。</p> <p>[Check] CBT、授業評価アンケートの結果に基づき、学習到達度の確認、教育効果の検証を行う。</p> <p>[Action] 授業内容、授業方法の改善方法、ディプロマポリシーの改定について検討する。</p> <p>①-2 専門教員と一般科目の意見交換を積極的に行い、教育方法改善についての検討を重ね、情報共有を図るなどの取り組みをまとめて公表する方法について検討する。</p>	<p>①-1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業時アンケートの実施を検討した。</li> <li>・課題解決のPBL導入について実施状況を調査した。</li> <li>・授業評価アンケートを実施し、教育効果などの検証を行った。</li> <li>・授業内容、授業方法の改善方法、ディプロマポリシーの改定について検討した。</li> </ul> <p>①-2 専門教員と一般科目の教員との意見交換会は、以下の組み合わせで行った。</p> <p>数学            — 環境都市工学科  物理・化学     — 電子制御工学科  英語・ドイツ語 — 機械工学科  国語・社会     — 電気電子工学科</p>
	<p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和4年度に受審予定のJABEE継続審査に向けて自己点検書を作成する。</li> <li>・5年1サイクルで実施する自己点検評価の1年目の内容を実施する。</li> <li>・運営諮問会議を開催し、外部有識者からの意見聴取を行う。</li> </ul>	<p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・JABEE継続審査に向けて自己点検書を作成するため、執筆部分の各担当者の割振りを行い、作成のための準備を始めた。</li> <li>・5年1サイクルで実施する自己点検評価(1年目)はJABEE審査を踏まえて基準8(専攻科課程の教育活動の状況)を点検するよう5年1サイクル計画表を変更し、自己点検評価を実施した。</li> <li>・運営諮問会議については、開催予定時期に緊急事態宣言が発令されたため、中止とした。</li> </ul>

	令和3年度 年度計画	令和3年度 年度実績
	<p>③-1 実践的教育に向けて、課題解決型学習(PBL [Project-Based Learning])を授業(専攻科1年、問題解決技法)に取り入れた共同教育を行う。セキュリティを含む情報教育については取り組んだ成果を他高専に展開する方法を検討する。</p> <p>③-2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・技術振興交流会会員企業を中心とした県内外企業との共同教育を継続して実施する。</li> <li>・インターンシップを技術振興交流会参加企業や千葉県内企業・大学・公官庁および海外において引き続き実施するとともに、問題解決技法で得られるアイデアを広く発信する。また、コロナ禍を考慮して、オンラインインターンシップの効果的導入を引き続き検討する。</li> <li>・専攻科におけるPBL関連科目「問題解決技法」を着実に実施する。</li> <li>・技術振興交流会会員企業によるインターンシップ説明会を企画・開催する。その開催形式は、社会情勢や学生・教職員らの安全確保に鑑みて、柔軟に検討する。</li> </ul> <p>③-3 サイバーセキュリティ人材育成事業(K-SEC)が作成した教材等を活用し、全学科でのセキュリティ教育を行う。</p>	<p>3-① 課題解決型学習(PBL (Project-Based Learning))を授業(専攻科1年、問題解決技法)に取り入れた共同教育を行った。セキュリティを含む情報教育について、取り組んだ成果を他高専に展開する方法を検討した。</p> <p>③-2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インターンシップは、今年度も例年通り実施され、各学科の学生が単位を修得し、進路に対する意識の向上に役立っている。参加学生数は、以下のとおりである。 [4年生 機械:31名参加/40名中、電気電子:22名参加/37名中、電子制御:17名参加/43名中、情報:8名参加/48名中、環境都市:38名参加/42名中、5年生:15名(M科4名、D科4名、C科7名)]</li> <li>・問題解決技法で得られた成果の発進を積極的に行う。令和3年10月31日、千葉市動物公園で開催されたZooフェスタ2021にて栗本教授より、「Gorillas in the 5G」と題して、令和2年度と令和3年度の問題解決技法の実施内容と今後の展望についてライブ配信で報告した。</li> <li>・専攻科におけるPBL関連科目「問題解決技法」の実施にあたり、技術振興交流会からの資金助成がなされた。</li> <li>・来年度の学生らのインターンシップ先の選定の参考になるように、令和4年3月に技術振興交流会会員企業によるインターンシップ説明会(オンライン形式)を実施した。</li> </ul> <p>③-3</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1年の導入教育として M科 工学実験I、E科 情報リテラシー、D科 計算機演習、J科 コンピュータ入門、C科 情報処理入門で情報セキュリティ教育を実施した。</li> <li>・4年のインターンシップ参加のため、全学科の学外実習で情報セキュリティ教育を実施した。</li> </ul>
	<p>④ 教員研究集会やシンポジウムへの参加、および共同研究を積極的に行うことにより、技術科学大学等との連携を図る。</p>	<p>④ 長岡・豊橋の両技科大とは常に連携をとっており、本校主催の12/4(土)の大学説明会、12/23(木)の大学院説明会に両技科大が参加した。</p>

	令和3年度 年度計画	令和3年度 年度実績
<p>(5) 学生支援・生活支援等</p>	<p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学外において開催されるメンタルヘルス研究会および学生相談室等の研修会へ参加する。また、学内においてメンタルヘルス研修会を実施する。</li> <li>・新入生オリエンテーションとして学生相談室ガイダンスを実施し、カウンセラーの紹介を行う。また、カウンセラーによる新入生全員面接を行う。</li> <li>・カウンセラーによる合同HRやクラス単位の講義を実施する。</li> <li>・コミュニケーションスキルアップのためのセミナーや特別学習を実施する。</li> <li>・個別の障害学生支援として、精神科医とのカンファレンスを定期的実施する。</li> <li>・ソーシャルワーカーの配置について学生相談室委員会で検討する。</li> </ul>	<p>①</p> <p>各種研修やアンケート調査から、心配な学生のスクーリングを行い、カウンセリングや面談に繋げている。また、学内研修はオンライン講演を実施する等工夫を行った。</p> <p>■メンタルヘルス関係等</p> <p>&lt;学内&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4/1(木) 学生のメンタルケアに関する研修会(教職員100名)</li> <li>・4/7(水)～19(月) 新入生オリエンテーション(1年生204名:学生相談室の紹介など)</li> <li>・4/7(水)～22(木) 「こころとからだの健康調査」(全学年:回答内容から個別カウンセリングを実施)</li> <li>・5/7(金)～6/18(金) カウンセラーによる全員面接(1年生204名)</li> <li>・7/30(金) 教職員対象セミナー「カウンセラーから伝えたいこと」(教職員100名)</li> <li>・10/14(木) QUアンケート(1～3年生:個別カウンセリングに繋げた)</li> <li>・10/11(月)～29(金) 「高専生活に関するアンケート」(4～5年生:個別カウンセリングに繋げた)</li> <li>・11/11(木) デートDVに関する講演会(2年生210名:外部講師)</li> <li>・11/18(木)～1/6(木) 『こころの健康』講話(1年生:クラス単位:本校カウンセラー)</li> <li>・3/8(火) 教職員メンタルヘルス研修会(教職員100名)</li> <li>・通年 特別学習(週1回/物理・化学・数学)</li> </ul> <p>&lt;学外&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・8/25(火)～10/31(土) AHEAD JAPAN CONFERENCE 2021 ONLINE PROGRAM(教職員14名/オンライン受講)</li> <li>・10/15(金)～3/31(木) 令和3年度障害学生支援専門テーマ別セミナー「コロナ禍における障害学生支援」(学生相談室員/オンライン)</li> <li>・11/15(月)～3/31(木) 令和3年度障害学生支援理解・啓発セミナー(全教職員/オンライン)</li> <li>・11/29(月) 児童生徒の自殺予防に関する普及啓発協議会(教職員1名)</li> <li>・12/10(金) 令和3年学生生活における喫緊の課題に関するセミナー(教職員1名)</li> <li>・12/16(木)～17(金) 第18回全国国立高等専門学校学生支援担当教職員研修(教職員1名/オンライン)</li> </ul>

	令和3年度 年度計画	令和3年度 年度実績
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 11/11(木)～1/10(水) 日本学校保健会特別セミナー「子供の健康とスマホ・ゲーム依存」講習会（職員2名/オンライン）</li> <li>■その他 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 『コミュニケーションスキルアップのためのセミナー』は経費高騰のため未実施</li> <li>・ 支援対象学生の状態が安定しているため、精神科医とのカンファレンスは未定。学校で実施した検査結果を、保護者を通じて主治医へ情報提供した。</li> <li>・ 非常勤のソーシャルワーカー1名を6月から配置（月1回定期的に来校）</li> </ul> </li> </ul>
	<p>② 各種奨学金の募集情報を随時担任へ周知すると共に、学生には学内の電子掲示板で掲示することと並行してTeams上での周知もし、よりきめ細かく周知の徹底を図る。また、日本学生支援機構が開催する担当者研修会には計画的に職員を参加させ、学生の支援体制を充実させると共に、事務処理体制を見直し、効率的、合理的な運用方法を検討する。</p>	<p>② 各種奨学金等の周知徹底については、学生保護者共通ツールとして、一斉配信メールや学校HPを利用し、学生に対してはTeamsを利用するなど、情報提供については周知徹底を図ることが出来ている。また、職員研修については、新型コロナウイルス感染対策により動画配信形式等となっており、情報収集や係内で共有を行っている。</p>
	<p>③</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 進学・就職担当の5年担任および専攻科2年教員と情報を共有し、適切な学生支援を行う。また、4年生には進路に対する意識向上を図るために企業や大学を知る機会を多く設ける。就職希望者には、会社説明会や就職情報会社によるセミナー等、オンラインを含む参加機会を提供し、企業選択の意識向上を図る。進学希望者にも、オンラインを含む大学及び大学院の学校説明会を開催するなど、情報提供を図る。</li> <li>・ キャリア支援室設置により企業、学生の窓口が一元化されたことで、情報提供を受ける側の企業・学生への更なる利便性を図り、同窓会と連携をした卒業生情報の活用を図る。</li> </ul>	<p>③</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新型コロナウイルス感染対策によりオンラインセミナーに移行傾向であるが、多くのツールを提供し、就職・進学の進路選択の機会を設けている。</li> <li>・ キャリア支援室では、求人情報システムによりきめ細かい情報提供に務め、卒業生情報活用のため同窓会との連携を行っている。</li> </ul>

	令和3年度 年度計画	令和3年度 年度実績
【1.2 社会連携に関する事項】	<p>① researchmapを通じて教員の研究分野や共同研究・受託研究の成果などの情報を発信するとともに、Webページの主要設備集を随時、更新・充実させ、様々な媒体を通じて本校の地域連携活動や研究成果を広報する。</p>	<p>① researchmapの更新を教員へ促し、教員の研究分野や共同研究・受託研究の成果などの情報を発信するとともに、Webページの主要設備集を随時、更新・充実済である。</p>
	<p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・技術振興交流会のイベントや会員間の交流を通じて、地域社会のニーズ把握を推進する。</li> <li>・KRA(高専リサーチアドミニストレータ)から伝えられる研究公募等の情報を確実に対象教職員に伝えることに努め、KRAの方々との情報交換なども可能な範囲で行う。</li> <li>・技術振興交流会からの研究助成、地域の金融機関が公募する産学研究助成への応募を促す。</li> <li>・技術シーズ交流会などのイベントに可能な限り参加し、本校教職員がもつ研究・技術シーズを広く発信していく。</li> <li>・KRAと協働して共同研究・受託研究・受託試験などを受け入れるための広報活動や技術マッチングの推進に引き続き力を入れる。また技術振興交流会の研究助成金やちばぎん助成金などを活用して共同研究を推進する。</li> </ul>	<p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・10月19日に開催された「第34回 技術振興交流会テクノフォーラム」において、技術振興交流会役員と高専教職員とによる「地域の課題に関するフリートーキング会」を開催し、地域社会のニーズの把握に努めた。</li> <li>・技術振興交流会からの研究・教育助成制度、ちばぎん(千葉銀行)研究助成制度などを全教職員に教員会議およびメールで周知し、積極的な応募を促した。その結果、前者にも1件、後者にも1件の応募があり、両方とも採択された。</li> <li>・昨年度に引き続き新型コロナウイルス対策のため、対面での打ち合わせは自粛したが、共同研究・受託研究・受託試験などを受け入れるための広報活動や技術マッチングの推進、A-STEPや科研費に関するKRAとの打ち合わせをメールベースで複数回実施した。</li> </ul>
	<p>③-1 機構本部での対応</p> <p>③-2 地域連携の取組や学生活動等の様々な情報をホームページ等で情報発信を行うとともにSNSの活用を検討する。また、報道内容及び報道状況を本部に報告するために学内情報収集を積極的に行う。</p>	<p>③-2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域連携の取り組みや学生活動等の様々な情報をホームページや高専だよりで情報発信を行った。また、ソーシャルメディアを活用するために、ソーシャルメディアポリシーの策定を行った。</li> <li>・新聞などの報道内容及び報道状況については、現在のところ88件本部に報告した。</li> <li>・高専機構プレスリリースに4件投稿した。</li> </ul>

	令和3年度 年度計画	令和3年度 年度実績
【1.3 国際交流等に関する事項】	<p>①-1 諸外国に「日本型高等専門学校教育制度（KOSEN）」の導入支援を展開するにあたって機構本部と連携し、可能な範囲で支援を継続する。</p> <p>①-2 モンゴルにおける「KOSEN」の導入支援として、モンゴルの自助努力により設立された3つの高等専門学校を対象として、教員研修、教育課程の助言、学校運営向上への助言等に機構本部と連携し、可能な範囲で支援を継続する。</p> <p>①-3 タイにおける「KOSEN」の導入支援として、教員研修、教育課程の助言、学校運営向上への助言等に、機構本部と連携し、可能な範囲で支援を継続する。</p> <p>①-4 ベトナムの教育機関において日本型高等専門学校教育を取り入れて設置されたモデルコースを対象として、教員研修や教育課程への助言、学校運営向上への助言等に、機構本部と連携し、可能な範囲で支援を検討する。</p> <p>①-5 リエゾンオフィスを設置している国以外への「KOSEN」の導入支援として、機構本部と連携し、政府関係者の視察受入を継続する。</p>	<p>①-1 「日本型高等専門学校教育制度（KOSEN）」の導入支援を展開するにあたって、タイとモンゴルに対して、機構本部及び主幹校と連携し、支援を行った。</p> <p>①-2 モンゴルにおける「KOSEN」の導入支援として、モンゴルの自助努力により設立された3つの高等専門学校を対象として、教育課程の助言、学校運営向上への助言等に機構本部及び主幹校と連携し、支援を行った。</p> <p>①-3 タイPREMIUMコースの支援校であり、教育課程の助言、学校運営向上への助言等に、主幹校と連携し、支援を行っている。特に数学、制御工学と電磁気学の問題作成、採点、採点確認を行った。</p> <p>①-4 直接支援は行っていないが、支援校の担当先生方と定期的に教育課程と学校運営の向上に関する意見交換を行った。</p> <p>①-5 コロナ禍の影響で、外国の政府関係者の視察受入は実施できなかった。</p>
	<p>② 「KOSEN」の導入支援に係る取組を本校の国際交流の機会としても活用し、「KOSEN」の海外展開と本校の国際化を一体的に推進することを継続する。</p>	<p>② 「KOSEN」の導入支援に係る取組を本校の国際交流の機会としても活用し、「KOSEN」の海外展開と本校の国際化を一体的に推進することを継続的に実施した。タイの支援活動は教職員の国際交流に役に立った。</p>
	<p>③-1 台湾、シンガポール、ドイツ、マレーシアとの交流プログラムを継続的に実施すると共にプログラムの充実を図る。また、新たな交流先および交流プログラムを検討する。「KOSEN」の導入支援対象校やこれまで学生交流協定を締結している海外教育機関を中心として単位認定制度の整備や単位互換協定の締結を検討する。</p>	<p>③-1 シンガポールのRepublic Polytechnicとオンラインでインターンシップを行った。</p>

	令和3年度 年度計画	令和3年度 年度実績
	<p>③-2 海外で活躍できる技術者、学生の英語力、国際コミュニケーション力の向上のため、海外インターンシップの他に、短期留学生受入、International Workshop of Effective Engineering Education (IWEEE) の開催を継続的に実施する。また、引き続き、“KOSEN (高専) 4.0” イニシアティブで導入した国際遠隔コラボレーションのシステムを活用し学生の英語力、国際コミュニケーション力の向上に取り組む。</p> <p>③-3 「トビタテ! 留学 JAPAN」プログラムをはじめとする外部の各種奨学金制度等を積極的に活用できるようにすると共に、CDIO 加盟校および交流協定校を中心とするインターンシップ、英語研修の強化を行う。</p>	<p>③-2 International Workshop on Effective Engineering Education (IWEEE) をオンラインで開催した。KOSEN (高専) 4.0イニシアティブで導入した国際遠隔コラボレーションのシステムを活用し学生の英語力、国際コミュニケーション力の向上に取り組んだ。</p> <p>③-3 「トビタテ! 留学 JAPAN」プログラムについて検討している学生に対して説明を行った。また、交流協定校であるシンガポールの Republic Polytechnic と一緒にオンラインインターンシップを実施した。</p>
	<p>④-1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 交流協定がある海外の学校との交流活動を活用し、従来の本科3年次への外国人留学生の受入れや本科1年次や専攻科への受入れの推進を検討する。</li> <li>・ ホームページの英語版コンテンツの見直しを検討する。</li> </ul> <p>④-2 機構本部と連携し、日タイ産業人材育成協カイニシアティブに基づく、1年次からの留学生の受入を検討する。</p>	<p>④-1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 従来の本科3年次への外国人留学生の受入れや本科1年次や専攻科への受入れのため重要な施設になる国際寮が令和4年4月より運営する予定である。今年度は運営に関する詳細を決定した。</li> <li>・ 本校Webページの英語版コンテンツ見直しの検討を始めた。</li> </ul> <p>④-2 留学生の受け入れを目指した国際寮が令和4年4月より運営する予定である。留学生の専門的能力、日本語能力等の観点から、1年次からの受入も可能になると思われる。</p>
	<p>⑤</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 海外留学に関しては、海外旅行保険に加入させる等の安全面への配慮を継続する。</li> <li>・ 外国人留学生の学業成績や資格外活動の状況等の的確な把握や適切な指導等の在籍管理を強化する。</li> </ul>	<p>⑤</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現在、海外への派遣は行ってないが、組織的には海外旅行保険に加入させる等の安全面への配慮は出来ている。</li> <li>・ 外国人留学生の学業成績や資格外活動の状況等の把握・指導をととして外国人留学生の在籍管理を実施している。</li> </ul>

	令和3年度 年度計画	令和3年度 年度実績
<p>Ⅱ. 業務運営の効率化に関する目標を達成するためとるべき措置</p> <p>【2. 1 一般管理費等の効率化】</p>	<p>【業務の効率化状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>管理業務の合理化を図り、中期計画に従い、人件費相当額等を除き3%の経費削減を行い業務の効率化を図る。</li> </ul> <p>【経費の配分状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>戦略的な配分を行うため校長裁量経費は、校長のリーダーシップのもと弾力的な予算配分を行う。</li> </ul>	<p>【業務の効率化状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>管理業務の合理化を図り、中期計画に従い、人件費相当額等を除き3%の経費削減を行い業務の効率化を図った。</li> </ul> <p>【経費の配分状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>戦略的な配分を行うため校長裁量経費は、校長のリーダーシップのもと弾力的な予算配分を8月に行った。 特に今年度は新型コロナウイルス感染防止対策として、学寮感染対策の実施、部活動時間が制約されているためグラウンド整備実施を外注する等、重点的に配分した。</li> </ul>
<p>【2. 2 給与水準の適正化】</p>	<p>該当なし</p>	<p>該当なし</p>
<p>【2. 3 契約の適正化】</p>	<p>【契約方式】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>公共料金を除き、契約基準金額以上については一般競争契約等による契約方式で実施し、経費の削減に努める。</li> </ul> <p>【一般競争契約における競争性と透明性の更なる確保】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一般競争参加要件の等級要件の緩和を図るとともに、必要最低限の仕様とするよう検討し、競争性を増すことにより透明性及び費用削減を行うよう努める。</li> </ul>	<p>【契約方式】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>公共料金を除き、契約基準金額以上については一般競争契約等による契約方式で実施し、経費の削減に努めた。</li> </ul> <p>【一般競争契約における競争性と透明性の更なる確保】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一般競争参加要件の等級要件の緩和を図るとともに、必要最低限の仕様とするよう検討し、競争性を増すことにより透明性及び費用削減を行えるよう努めた。</li> </ul>